

No. 88 >>> Contents

●年頭所感	一般財団法人大日本蚕糸会 会頭 松島浩道	1
●一般財団法人大日本蚕糸会から		
「国産繭・生糸サポーター制度」のご案内、「蚕糸の日 2026 フォーラム」のご案内		3
令和7年度蚕糸功労者表彰式（第81回）		7
●トピックス		
日本絹文化フォーラム 2025（7th）を開催して		
日本絹文化フォーラム実行委員会 事務局長 岡谷蚕糸博物館 館長 高林千幸		9
「第63回神宮式年遷宮 御装束神宝御料織始式」について		
一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸絹業振興部		11
「純国産絹白生地に江戸小紋を染めて」	日本工芸会正会員 廣瀬雄一	12
「Tokyo Textile Scope2026 Autumn/Winter」に出展して		
一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸絹業振興部		13
●研究・技術情報		
より良い繭づくりのために — 繭糸分離細繊維とその発生要因 —		
一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 池嶋智美		14
●海外情報		
The Aracne project is approaching its conclusion		
Dr. Silvia Cappellozza - Responsible of the CREA's Sericulture Laboratory of Padua		16
ARACNE プロジェクトは終盤に差し掛かっている（仮訳：大日本蚕糸会）		
イタリア国立農業研究・農業経済調査機構パドバ養蚕研究所長 シルビア・カッペッロツァ博士		19
●イベント情報		21
●一般財団法人大日本蚕糸会から		
2025年度第3次分の純国産絹マーク使用許諾状況		26
純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧		29
活動日誌		37
●蚕糸絹関係博物館一覧		39
●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧		42
●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）		44



一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 松島浩道

明けましておめでとうございます。

本年も、我が国の蚕糸絹業の発展のため、大日本蚕糸会がその役割を果たせるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大日本蚕糸会では、令和8年度から新中期事業計画（計画期間：令和8年度～12年度の5か年）に基づき、蚕糸業の収益性の改善を目指した新たな蚕糸対策を実施していくことにしています。

戦後の繭生産のピークであった昭和43年以降、養蚕農家数、繭生産量の減少が続いており、令和6年には養蚕農家数は134戸、繭生産量は38トン（生糸換算約7トン）となるまで減ってしまい、養蚕農家数、繭生産量の減少に歯止めがかかっていません。また、その繭の生産量のうち3/4が70歳以上の農家によって担われており、その農家の85%には後継者がいない状況にあります。

日本の蚕糸業がこのように衰退してしまった根本的な要因は、輸入生糸との価格競争の結果、国産生糸の価格が低迷したため養蚕農家の収益性が著しく低下してしまったことにあります。現在の平均的な繭の取引価格から試算しますと、養蚕農家の手取りは時給550円です。

また、国産の繭から生糸を生産する製糸工場も、採算性の悪化等から撤退が続き、現在わずか5社となってしまいましたが、国産生糸価格の低迷により、全ての会社で製糸部門は赤字経営となっています。

このままでは、遠からず日本から蚕糸業がなくなってしまうことは明らかです。

我が国の蚕糸業をこれからも存続させていくためには、生産コストに見合う繭や生糸の価格を速やかに実現して蚕糸業の収益性を改善することにより、養蚕業の後継者、新規参入者を確保するとともに、製糸業の経営の健全化を図ることが必要です。

そのためには、全ての蚕糸業関係者が「我が国の蚕糸業の存続」という目標を共有して、国産生糸を使った絹製品を消費者に適切な価格で購入していただけるよう一体となって取り組まなければならないと考えています。

また、そのような取り組みが成果を上げるためには、消費者の皆さんに日本の蚕糸業の歴史やその文化的な価値を理解していただき、国産生糸を応援していただくことが不可欠です。

大日本蚕糸会としては、令和8年度から国産生糸の新たな販路の開拓に重点的に取り組むとともに、新たに養蚕業に参入する者や生産規模を拡大しようとする者に対する支援を拡大します。また、消費者の皆さんを対象とした次の取り組みを実施することとしています。

(1) 国産繭・生糸サポーター制度について

蚕糸業の歴史を学ぶことを通じて、多くの方々に国産の繭・生糸の歴史的・文化的な価値を認識して頂き、我が国の蚕糸業が産業として存続していくことの重要性を理解していただくため、国産繭・生糸を応援してくれるサポーターの情報ネットワークを構築する国産繭・生糸サポーター制度を創設します。そのネットワーク通じて、国産繭・生糸に関わる様々な情報の発信、共有を行うとともに、サポーターをはじめ多くの方々に国産繭・生糸に関する様々なイベントに参加していただくこと等を通じて、日本の蚕糸業に対する支援の輪を広げていきたいと考えています。

この趣旨に賛同する多くの方にサポーターになっていただきたいと考えています。

(2) 「蚕糸の日」のイベント

明治天皇の皇后の昭憲皇太后が明治4年3月14日（旧暦）に宮中で御養蚕を始められたことに因んで、3月14日が「蚕糸の日」と定められています。今年は3月13日（金）に、「蚕糸の日」記念イベントとして東京都渋谷区神宮前にある東京ウィメンズプラザで伊勢神宮神宝装束部の宮本史典氏による記念講演「神宮式年遷宮と御料生糸」と「日本の蚕糸業が消滅してもいいの？」をテーマとしたパネルディスカッションを開催する予定です。ご関心のある方には是非ご来場いただきたいと思っています。

大日本蚕糸会は、国産生糸が日本の文化に欠かせない素材として将来に継承されていくためにも、引き続き、我が国の蚕糸業が持続的に営まれるよう支援していきたいと考えておりますので、今後とも関係者の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

改めまして、関係者の皆様の今年一年のご健勝とご多幸をお祈りしまして新年のご挨拶といたします。

「国産繭・生糸サポーター制度」のご案内



サポーター
登録料

無料

古代から日本の伝統・文化とともに歩んできた
我が国の蚕糸業が“**危機的状況**”です。

今行動しなければ、

日本の絹は無くなってしまう・・・
というところまで差し迫っています。
この状況を理解し、我が国の蚕糸業を
応援いただける方を募集しています。

全国の
養蚕農家数
134戸

養蚕農家
2/3が
70歳以上

養蚕農家
労賃時給
550円



この活動について

国産の絹糸は、日本の暮らしと文化を支えてきた大切な素材です。

この活動は、その価値を理解し応援する「サポーター」を募り、
情報発信やイベント紹介を通じて、絹の魅力を広めていきます。

国産生糸を使用した絹製品に対する需要が高まることで、
日本の絹がある未来になります。ぜひご参加ください。

サポーターになると

<情報を受け取れる>

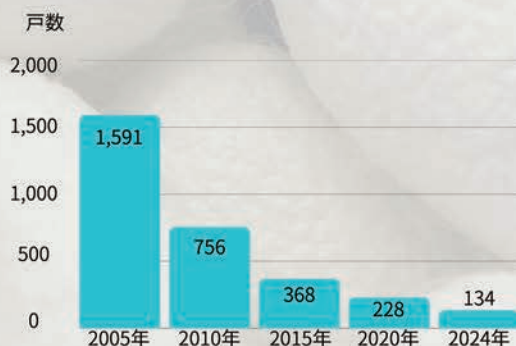
- 国産蚕糸関連のイベント・講演会等の情報
- 蚕糸に関するWEB記事や文献
- シルクレポート・統計データ等

<情報を届けられる>

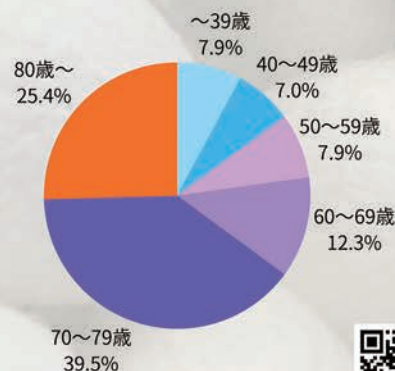
サポーターの皆さんが企画・参加するイベントを紹介します。

- 例えば
- 蚕糸に関する博物館での展示企画
 - 子どもたちがカイコにふれる体験会
 - 国産の絹を使った製品の展示会 など

全国養蚕農家数



2024年養蚕農家年齢構成



詳しくはこちらから ▶



「蚕糸の日 2026 フォーラム」のご案内

イベントのご案内

蚕糸の日2026フォーラム

開催趣旨

かつて我が国は生糸の世界最大の生産・輸出国でしたが、輸入生糸の増加や国内の和装需要の減少を背景にした繭・生糸価格の低迷により、農家及び製糸業は大きく減少し国内蚕糸業は消滅の危機にあります。

今回のフォーラムでは、このような状況を多くの方々に知っていただき、蚕糸業が産業として持続できる方策を探っていくことを目的としています。

記念講演「神宮式年遷宮と御料生糸」及びパネルディスカッション「日本の蚕糸業が消滅してもいいの？」を通じて、様々な方に国内蚕糸業の歴史的・文化的価値にもご理解を深めていただき、応援していただけることを願っています。

日 時 令和8年3月13日（金）13：00～16：00

※スケジュール詳細は裏面をご覧ください。

場 所 東京ウイメンズプラザ ホール（B1階）

※会場詳細は裏面をご覧ください。

参加費 無料

参加申込 こちらへ→<https://forms.gle/SWknTyP8w9rrha6z8>



令和8年2月13日（金）までに上記URLまたはQRコードからお申し込み下さい。

なお、上限人数（240名）に達しましたら締め切らせていただきます。

主 催 一般財団法人大日本蚕糸会、一般社団法人日本サステナブルシルク協会

開催スケジュール

1. 開会及び主催者からの趣旨説明 13:00~13:30

2. 記念講演 13:45~14:45

「神宮式年遷宮と御料生糸」

伊勢神宮 神宮式年造営庁 神宝装束部 神宮技師 宮本 史典 氏

(休憩 30分)

3. パネルディスカッション 15:15~16:15

<テーマ> 「日本の蚕糸業が消滅してもいいの？」

<パネリスト> 芦澤 洋平 氏 養蚕農家・一般社団法人日本サステナブルシルク協会代表

今泉 宜子 氏 明治神宮国際神道文化研究所主任研究員

合瀬 宏毅 氏 一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン代表理事理事長

工藤 操 氏 一般財団法人消費科学センター企画運営委員

高林 千幸 氏 岡谷蚕糸博物館-シルクファクトおかや-館長

<コーディネーター>

国見 裕久 氏 東京農工大学名誉教授

4. 閉会 16:30

会場

東京ウイメンズプラザ ホール（B1階）

住所：東京都渋谷区神宮前5-53-67

TEL：03-5467-1711

URL：<https://www.twp.metro.tokyo.lg.jp/>



令和7年度蚕糸功労者表彰式（第81回）



第81回を迎える一般財団法人大日本蚕糸会主催の令和7年度「蚕糸功労者表彰式」は、去る令和7年10月21日（火）東京都千代田区内幸町・帝国ホテル3階富士の間において、常陸宮妃殿下御臨席のもと、举行了。本表彰式では、恩賜賞1名、蚕糸功績賞2名、蚕糸功労賞10名、蚕糸有功賞9名、貞明皇后記念蚕糸科学賞1件、蚕糸絹文化学習教育奨励褒賞「蚕を学ぶ奨励賞」1件が栄えある表彰を受けられました。

1. 恩賜賞（1名）

林 良 博 国立科学博物館 顧問

2. 蚕糸功績賞（2名）

國 見 裕 久 東京農工大学 名誉教授
高 林 千 幸 岡谷市立岡谷蚕糸博物館 館長

3. 蚕糸功労賞（10名）

荒 木 安 之	京都手描き友禅協同組合 理事長
小 川 甚次郎	協同組合加賀染振興協会 理事長
金 田 朝 政	全国染織協同組合連合会 理事
黒 澤 仁	福島県 養蚕農家
小 玉 元 章	（一社）全日本きもの振興会 副会長
酒 井 貞 治	西陣織工業組合 副理事長
棚 町 敦 子	（株）ハースト婦人画報社 エディトリアル スーパーバイザー
長 竹 敏 次	（有）ミヤマ全織 代表取締役
早 瀬 悦 弘	茨城県本場結城織物協同組合 専務理事
四方田 正 美	群馬県蚕糸技術センター 所長

4. 蚕糸有功賞（9名）

石 井 正 宏	上田蚕種（株）取締役蚕種課長
越 前 文 孝	北洞（株）総務課長
長 田 誠 一	東京都 養蚕農家
神 澤 秀 幸	碓氷製糸（株）工務部社員
北 村 直 美	（株）宮坂製糸所 繰糸担当
工 房 おりをり	
高 野 正 美	北アルプス農業農村支援センター 主任
宮 武 淳 哉	松村（株）繊維原料部チーフ職
宮 本 衣 子	本場結城紬技術保持会 会員

5. 令和7年度（第68回）貞明皇后記念蚕糸科学賞

「カイコの人工飼料組成の単純化に関する研究」

（国研）農業・食品産業技術総合研究機構

平 山 力

6. 令和7年度（第13回）蚕糸絹文化学習教育奨励褒賞

「蚕を学ぶ奨励賞」

埼玉県立 川越総合高等学校

（敬称は略させていただきました）

日本絹文化フォーラム 2025（7th）を開催して

日本絹文化フォーラム実行委員会 事務局長

岡谷蚕糸博物館 館長

高林千幸

日本の絹文化を未来へ繋ぐというテーマのもと、標記フォーラムを2025年10月18、19日に岡谷市文化会館－カノラホールーで開催しました。

日本各地では蚕糸絹業を支えてきた事業者や地域で養蚕・製糸・絹製品づくりをしている人々が、伝統的な技術や文化を守り育てる活動や、新しい商品づくりに積極的に取り組んでいます。しかしながら、養蚕・製糸・絹産業の規模は年々減少し、衰退の一途をたどり、このままでは日本の蚕糸絹業の存続に危機感すら感じる現状になっています。

このような状況を憂い、2017年より岡谷市内の蚕糸関連団体で実行委員会をつくり、標記フォーラムを行ってきました（途中2回コロナ禍のため中止）。今回は第7回目となり、基調講演及び4題の講演を行いました。

基調講演では、一般財団法人大日本蚕糸会会頭松島浩道氏による「日本蚕糸業の現状と今後の課題」について講演を頂きました。養蚕農家の現状、蚕糸業衰退の原因、製糸業の厳しい経営状況などを述べられ、今後蚕糸絹業存続をさせるためには、養蚕農家は良質の繭をつくること、ニーズに即した糸をつくること、国産生糸で作った付加価値の高い製品開発を行うことなどの提案がありました。



一般財団法人大日本蚕糸会会頭松島浩道氏の基調講演

次に講演として、八王子長田養蚕代表長田誠一氏は「養蚕業に生きる」と題し、長田養蚕のあゆみと現状、特に力を入れている学習支援活動の取り組みについて述べられました。厳しい状況の中で、若手養蚕家として頑張っている姿に感動しました。これからの益々の活躍が期待されるところです。

株式会社 KYOTO SILK HUB 代表取締役会長細尾真生氏は「日本蚕糸業の未来形」と題し、フランスの最高級ワインが高額で取引されている例を挙げ、「日本の蚕糸業も高品質で差別化された個性ある絹をつくることができれば、新しい展開が可能である。現在、京都与謝野町に2万本の桑を植え、先端技術を導入した養蚕・製糸事業体を形成し、日本の最高級の絹を世界へ展開していく」という、未来への夢のある力強い講演でした。

3 題目は、岡谷出身の絹本（けんぽん）日本画家・冬麗社絹絵研究会主宰花岡哲象氏による「絹本日本画に導かれる世界」と題した講演でした。花岡氏は50年に及び絹本（日本画を描くために用いる平絹、絵絹）のみを使用してきましたが、それは水に馴染む絹の素直さと、精妙なぼかしを醸し出す絹の神秘性について述べられました。絹と出会い、まさに絹に魅せられた人生。絹の特性を改めて知る素晴らしい講演でした。

最後に、株式会社森を織る代表取締役小森優美氏による「生命のつながりを伝える絹織物の物語」と題する講演とドキュメンタリー映画「森を織る」の上映が行われました。何千年もの間、お蚕さまと人との共同作業によってできてきた絹織物が人類を魅了してきたこと、そして小森氏は自らが培ってきた養蚕、製糸、絹織物のつながりで国産絹のものづくりができることを感じ、ドキュメンタリー映画を製作されました。お蚕さまへの畏敬の念と絹織物の内面的な美しさを表現した映画でした。



日本絹文化フォーラム 2025 の会場風景

今回は、およそ120名の皆様に聴講して頂きました。これからの蚕糸絹業のあり方、絹の素晴らしさ、絹文化の継承の大切さを感じるフォーラムとなりました。

「第 63 回神宮式年遷宮 御装束神宝御料織始式」について

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸絹業振興部

令和 7 年 11 月 27 日、京都市上京区にある龍村美術織物烏丸工場内において「第 63 回神宮式年遷宮 御装束神宝御料織始式」が斎主に今宮神社の佐々木從久宮司、大森直樹禰宜をお迎えして厳かに執り行われました。式典には神宮式年遷宮廳から長内弘昭神宝装束部長と高橋弘幸神宝装束部課長、式典主催者の（株）龍村美術織物及び（株）高島屋それぞれ龍村育代表取締役社長と上條智子執行役員京都店長、また来賓として染司よしおかから吉岡更紗代表、大日本蚕糸会から松島浩道会頭など合計 22 名が参列いたしました。

神宮式年遷宮は 1300 年前に始まり、以来 20 年毎に繰り返されてきた、隣接した敷地に新たな社殿を造営し御神体をお移しする伊勢神宮最大の神事です。遷宮に当たっては、社殿を造り変えるだけでなく、大御神の衣服や服飾品などの「御装束」、武具、楽器、文具、日用品などの「神宝」を全て新しく作り替えて奉納されます。これらの御装束神宝は 714 種類、1567 点に及びますが、その調整に当たっては約 1500 kg の生糸が素材として使用され、令和 15 年の第 63 回神宮式年遷宮においては全て国産生糸によって賄われることになっています。これは、古例にならったということに加え、国産生糸が持っている織度が細く、柔軟でコシがあり、光沢に富んでいて美しく染まるという特長を評価していただいたものと拝察しています。

現在、日本の蚕糸業は存亡の危機に直面していますが、長い歴史を持ち、日本の文化、伝統と深く関わりつつ営まれてきた日本の蚕糸業が、皆様のご理解、ご協力を得て、末永く神宮の式年遷宮にご貢献できることを期待しています。



「純国産絹白生地に江戸小紋を染めて」

日本工芸会正会員

廣瀬雄一

江戸小紋は室町時代に発祥し、江戸時代に普及した型染めのことです。私の工房では糯粉（もちこ）とぬか、塩を調整して小紋糊を作るところから始まります。型付けは伊勢型紙を使い、型の上に糊を均一に乗せ、型をつないで一反の江戸小紋に仕上げていきます。今回初めて純国産絹の白生地に江戸小紋を染める経験をさせていただきました。

生地の上のしっとりしたしなやかさを感じる中、型付けに入りました。シボの高さや均一性も抜群によく、絹本来の持つ光沢も感じました。実際に染料でしごき染めをして蒸しに入れる、その後水元で糊を洗い流してみると美しいほどの仕上がりにやっぱり純国産絹の白生地は違うと感じた一瞬でした。色の透明感もこれまでの白生地とは違い、肌触りも滑らかに感じ、日本が古くから大切に守ってこられた絹の文化、伝統の重みを経験いたしました。



「Tokyo Textile Scope2026 Autumn/Winter」に出展して

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸絹業振興部

11月12日（水）～14日（金）において、東京都立産業貿易センター浜松町館で開催された「Tokyo Textile Scope 2026 Autumn/Winter」に国産生糸の生地10点を展示しました。生地は経糸、緯糸共に「ぐんま200」の生糸を使用したものの他、経糸は「ぐんま200」とし緯糸に真綿、麻、ウール、綿を用いたものを八王子織物工業組合に所属する大原織物に製織していただきました。初めての試みであり今後洋装メーカー特にマフラー、スカーフを取り扱うアパレルメーカー、さらには工芸作家の方々にも実際に見ていただき国産生糸の歴史・文化を背景にしたストーリー性のある新たな商品開発を通じて、国内蚕糸業を応援していただけることを願っています。



より良い繭づくりのために

—繭糸分離細繊維とその発生要因—

一般財団法人大日本蚕糸会

蚕糸科学技術研究所

池嶋智美

「ラウジネス」や「繭糸分離細繊維」という言葉をご存じでしょうか？「繭糸分離細繊維」とは、主軸となるフィブロインから分離した細い繊維のことで、人の髪の毛でいえば“枝毛”のようなものです。枝毛は摩擦などでできますが、この繊維は繭糸中にすでに存在している先天的なもので、遺伝的要因が大きく影響しています（図1）。これらの微細繊維が絡み合うと「ラウジネス」と呼ばれる毛玉状の塊となり、染色後の白斑の原因になります。

かつて蚕品種の登録制度があった時代には、生糸に発生した「ラウジネス」を標準写真と照合する「エクスホリエーション検査」が評価項目として実施されていました。また、育種の現場でもこの問題に対応するため、繭の一部を顕微鏡で観察し、繭糸分離細繊維の発生程度を判定する顕微鏡法が開発されました。

しかし、「繭糸分離細繊維」や「ラウジネス」の問題が品種改良によって完全に解消されたかという点、そのようなことはなく、今もなおその影響は残っています。私自身、研究所に入所した当初はこの現象にあまり馴染みがなく、最近の品種ではあまり話題にならないので問題は少ないのではないか、と思っていたのですが、その認識は浅はかでした。

私たちのグループではこれまでに、繭糸分離細繊維の発生数を定量化する方法を開

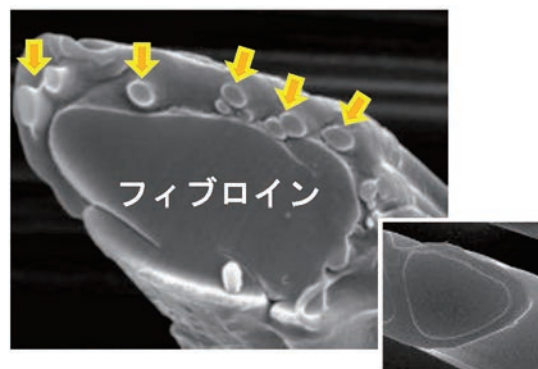


図1 繭糸分離細繊維
(黄矢印、右下は正常な繭糸)

発し、報告しています。詳細は省きますが、繭から切り出した小片をアルカリ溶液中でほぐして糸状にし、発生した繭糸分離細繊維を攪拌して絡ませることで、微細繊維の集合体を形成させます。生成した集合体の数を数えることで、繭糸分離細繊維の発生量を定量的に評価することができます。本手法は従来の顕微鏡法との相関も確認されており、簡便に実施できる点が特長です。この方法を用いて各種品種を解析した結果、繭糸分離細繊維の発生量には品種間で差があり、遺伝的要因が大きく関与していることが分かりました。

一方で、飼育環境も繭糸分離細繊維の発生に影響することが明らかになってきました。特に上簇時の条件が重要で、この時期の管理が発生数に大きく関わることをご紹介したいと思います。

遺伝的に繭糸分離細繊維をほぼ発生しない品種でも、不適切な飼育条件だと次のよ

うなことが起こりました。この品種を上簇の適期にまぶしに入れず、床上に放置しました。すると、蚕は繭を作れず必死に這い回りながら糸を吐き続けます。その姿はかわいそうでしたが、心を鬼にして見守りました。平面上で糸を吐き始めた蚕たちは、いわゆる平面繭を形成しました。得られた平面繭を調べたところ、繭糸分離細繊維をほとんど発生しない品種であっても、その発生が明瞭に確認されました（図2）。

他方、繭糸分離細繊維が多い品種においても、上簇のタイミングを1日遅らせたところ、適期で上簇した場合に比べて繭糸分離細繊維の発生が約3倍に増加しました。また、1日早めに上簇した場合にも増加する傾向が見られました。



図2 平面繭を作る蚕と発生した繭糸分離細繊維

これらの結果から、繭糸分離細繊維の発生には遺伝的要因が大きく関与する一方で、上簇のタイミングが早すぎても遅すぎても発生量が増加することが明らかとなりました。過去にも、まぶし内をうろつき、上簇が遅れた蚕で繭糸分離細繊維が多く発生したという報告があり、今回の実験はそれを裏付ける結果となりました。つまり、繭糸分離細繊維が発生しにくい品種であっても、条件次第で発生してしまうという留意すべき点が明らかになりました。なお、上簇時の湿度の管理が解じょ（糸のほぐれやすさ）に影響することはよく知られてい

ますが、繭糸分離細繊維の発生には影響していないようです。

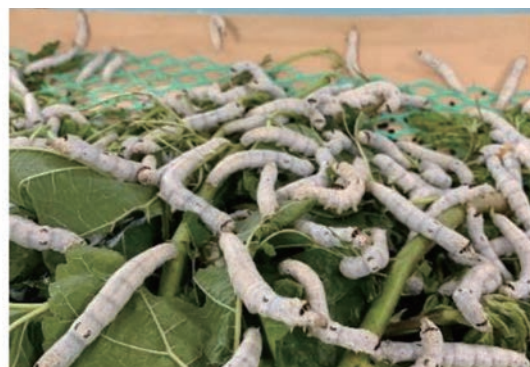


図3 上簇を待つ蚕

蚕種製造に必要な多くの品種を飼育する経験を通して私が強く感じていることは、蚕の发育を揃え、上簇のタイミングを一致させることの難しさです（図3）。だからこそ、上簇のタイミングがばっちり決まった時には、何ともいえない晴れやかな気分になります。上簇の適期を見極め、適切なタイミングで上簇させることは、繭糸分離細繊維の発生を最小限に抑えることにもつながります。この知見を養蚕に携わる皆さまと共有し、今後のより良い国産繭づくりに少しでも役立てていただければ幸いです。

参考文献

- 栗岡 聡 (2023)「実用蚕品種に潜む繭糸分離細繊維に挑む」
シルクレポート No.76 p12-15
栗岡 聡 (2023)「繭糸分離細繊維のない美しい絹を求めて」
シルクレポート No.77 p6-10
栗岡 聡・池嶋智美 (2024)
「繭糸分離細繊維発生を誘導する条件について（予報）」
大日本蚕糸会研究報告 第 71 号
p21-24
池嶋智美・栗岡 聡 (2024)
「飼育条件が繭糸分離細繊維の発生量におよぼす影響について」
大日本蚕糸会研究報告 第 71 号
p15-20



The Aracne project is approaching its conclusion

Dr. Silvia Cappellozza - Responsible of the CREA' s Sericulture Laboratory of Padua

The Horizon Europe Aracne project commenced on 1 March 2023 and is scheduled to conclude on 28 February 2026. The project is comprised of six work packages (WPs), i.e. groups of specific activities designed to achieve important milestones. Among these, the first was the 'Establishment of the ARACNE knowledge bank for the Silk Innovation Ecosystem'; it was conceived for facilitating a more profound comprehension of European silk-related arts, culture, genetics, landscape, production, industrial and built heritage and values. This was achieved by investigating the presence of so-called 'Silk points of interest' in the territory, which were grouped in a virtual map to obtain a visual representation. The map constructed to date is represented in Figure 1. The research was conducted even with the participation of students from secondary schools. Consequently, the educational maps created by these students were also incorporated into the virtual map. Students could choose between two pathways: 1) Cultural Heritage (CH) dedicated to Social and Humanities Schools, and 2) Agricultural Landscape (AL) designed for Agricultural Technical Schools. A class of students of the CH path, created the example of local map shown in Figure 2 and accompanied by a video inter-view with a former reeling worker who discusses her experiences with silk. Figure 3 presents a map of students from the AL path, showcasing ancient mulberry varieties. These were geo-localised and described through a dedicated MorusAPP, which was specifically developed for the project. Identification of mulberry trees has been done on the partners' territories and followed by old varieties recovering and transferring to the respective research institutes' collections for replication and possible distribution to farmers. Figure 4 shows an example of ancient mulberry tree located in the Italian countryside.

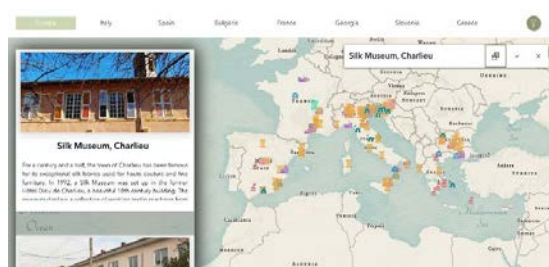


Fig. 1 - Map of Silk Points of Interest

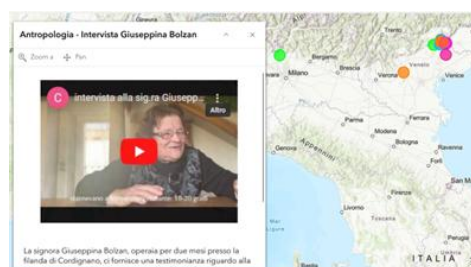


Fig. 2 - Educational map (Cultural path)

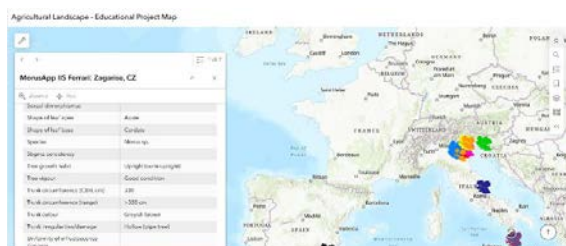


Fig. 3 - Educational mulberry tree map 1



Fig. 4 - Ancient mulberry

The project also analysed the phenomics, proteomics, metabolomics and lipidomics of historical and contemporary silkworm cocoon shells. 148 samples were collected from various museums, private collections and genetic resources centres. 80 of these were analysed. Our findings showed that European silkworm races are lineages of races that evolved in Central Asia and the Middle East before arriving in Europe. They then were interbred and improved through the introduction of Chinese and Japanese silkworm races. The data sets, which have been validated through archival documents, have recently been published (<https://www.nature.com/articles/s41597-025-06071-9>).

The second WP, on the other hand, comprised two milestones. One contemplates the evolution of a virtual and geo-referenced exemplar for the Silk Science Museum of IMIDA (situated within the confines of the erstwhile Sericulture Station of Murcia). The concept was to develop a virtual tool to promote the opening of a new silk scientific museum, intended to be part of the future European Silk Route. Photogrammetric flights of the six historic buildings of the Silk Station were carried out, and 3D models of these buildings were completed. Consequently, it is possible to take a virtual tour of the historic buildings of the former Sericulture Station and of six virtual rooms, part of the Silk Science Museum (Figures 5 and 6).



Figure 5 - 360° virtual tour of the Sericulture Station



Fig. 6 - 360° virtual tour of the exhibition (Silk Science Museum)

The second milestone was the development of innovative silk design and fashion solutions under the Aracne project. In this framework, a significant accomplishment, amongst the rest, was the es-tablishment of a silk design and fashion centre, Atelier Treasure, at Villa La Palladiana, which forg-es a bond between the silk manufacturing and cultural heritage embodied by Venetian villas. These large estates, established by the Venetian aristocracy in north-eastern Italy between the 15th and 16th centuries, combined the aesthetics and grandeur of stately residences with the buildings neces-sary for managing the surrounding crops. In the 16th century, Andrea Palladio developed a specific type of Venetian villa known as the Palladian villa. The 24 Palladian villas in Veneto have been in-cluded in the UNESCO World Heritage List and have inspired numerous creations by subsequent architects. Some historians have recently emphasised the significant connection between the villas commissioned by Palladio's noble patrons and the profits derived from mercantile activities

associated with silk production and trade. Some have even suggested that the Venetian villa landscape is akin to the agricultural landscape of the 'Piantata veneta', bordered by rows of mulberry trees. Therefore, the decision of D' orica (a project partner company) to install a small, restored Japanese Nissan reeling machine in the barn of a Venetian villa as part of the Aracne project is highly symbolic. This creates a point in space and time in which the agricultural heart of the villa (the barn) once again becomes the driving force for new economic development linked to silk. The 'Atelier Treasures' project, which involves presenting silk and gold jewellery to clients on an exhibition itinerary, offers a fresh perspective on the artistic heritage of these magnificent ancient buildings (of which there are 4,000 in the Veneto region) and aims to revive the silk economic activity through the appeal of fashion and luxury. This villa and its atelier will become an interest point on the European Silk Cultural Route, which is to be established. Figures 7 and 8 show reeling machine and its installation.

Currently, the Aracne partners are actively pursuing new projects to build on previous work.



Fig. 7 – Nissan Silk Reeling machine



Fig. 8 – Palladium Villa 'La Palladiana' – Piazzola sul Brenta (Pd)- Italy

ARACNE プロジェクトは終盤に差し掛かっている

(仮訳：大日本蚕糸会)

シルビア・カッペッロツツァ博士

イタリア国立農業研究・農業経済調査機構パドバ養蚕研究所長

“Horizon Europe” (EU の研究・イノベーションプログラム) に採択された ARACNE プロジェクトは 2023 年 3 月 1 日に開始され、2026 年 2 月 28 日に終了する予定です。本プロジェクトは 6 つの作業パッケージ (WP) で構成されており、これらの WP は重要なマイルストーン達成を目的として計画された特定の取組のパッケージです。

このうち、第一の作業パッケージは「シルク・イノベーション・エコシステムのための ARACNE 知識バンクの構築」であり、シルクに関連する欧州の芸術、文化、遺伝学、景観、生産、産業及び建造物遺産と価値に対するより深い理解を促進することを目的として構想されました。このマイルストーンは、いわゆる「シルクに関する POI (注目地点)」が地域内に存在するかどうかを調査し、それらを仮想マップ上にグループ化して視覚的に表現することで実現されました。現在までに構築された地図を図 1 に示します。この調査研究には中等学校の生徒も参加し、彼らが作成した教育用マップも仮想マップに統合されました。学生は 2 つのコース、すなわち 1) 社会・人文科学系スクール向けの「文化遺産 (CH)」と 2) 農業技術スクール向けの「農業景観 (AL)」から選択可能としました。CH コースの学生のクラスは、図 2 に示す例のような地域マップを作成し、シルクについての経験を語る繰糸工へのビデオインタビューを添えました。図 3 は AL コースの学生が作成した地図で、古代の桑の品種を紹介しています。これらは専用アプリ「MorusAPP」(本プロジェクトのために開発) を用いて、地理的位置を特定し説明が加えられました。桑の木の同定はプロジェクト参加各国のパートナー機関で行われた後、複製と農家への配布を目的として、古い品種の復元とそれぞれの国の研究機関のコレクションへの移管が行われました。図 4 はイタリアの田園地帯に存在する古代の桑の木の例を示しています。

本プロジェクトでは、古代と現代の繭のフェノミクス、プロテオミクス、メタボロミクス、リピドミクスの分析を実施しました。様々な博物館や個人のコレクション、遺伝資源センターから 148 サンプルを収集し、そのうち 80 サンプルを分析した結果、ヨーロッパのカイコの品種群は中央アジアと中東で進化した系統であり、その後ヨーロッパに到達したことがわかりました。そして、中国及び日本のカイコ品種が導入され、交配と改良が繰り返されました。これらに関するデータは文献によって検証され、最近公開されました。(https://www.nature.com/articles/s41597-025-06071-9)

第2の作業パッケージでは2つのマイルストーンを達成しました。1つは、IMIDA シルク科学博物館（旧ムルシア養蚕試験場敷地内に設置されている。）を対象に、地理的情報が付加された仮想現実のモデルの開発を目指すものです。これは、将来の欧州シルクロードの一部となる新たなシルク科学博物館の開設を促進する仮想ツールを開発することを目的としています。旧ムルシア養蚕試験場の6つの歴史的建造物について写真測量飛行を実施し、これらの建物の3Dモデルを完成させました。それをもとに、IMIDA シルク科学博物館の構成要素として、旧ムルシア養蚕試験場の歴史的建造物と6つの仮想展示室をバーチャルツアーで巡ることが可能となりました（図5および図6）。

もう一つのマイルストーンは、ARACNE プロジェクトのもとで革新的なシルクデザインとファッションソリューションを開発したことです。これに関して、特に顕著な成果の一つは、ヴェネツィアの別荘群が体現するシルク製造と文化遺産との絆を具現するシルクデザイン・ファッションセンター「アトリエ・ツリーシュア」をヴィラ・ラ・パラディアーナに設立したことです。ヴィラ・ラ・パラディアーナの広大な別荘は、15～16世紀に北東イタリアでヴェネツィア貴族によって築かれ、美しく壮大な邸宅と周辺の農作物を管理するために必要な建物が結合されていました。16世紀には、アンドレア・パッラーディオ氏が「パッラーディオ様式の別荘」として知られる特別のタイプのヴェネツィア別荘を建設しました。ヴェネト州にある24のパッラーディオ様式の別荘はユネスコ世界遺産リストに登録され、後世の建築家たちに数多くの創作のインスピレーションを与えています。一部の歴史家は近年、パッラーディオに住む貴族パトロンが建設を発注した別荘と、シルク生産・貿易に関連する商業活動から得られる利益との間に重要な関連性があることを強調しています。中には、ヴェネツィアの別荘景観が桑の木の列で縁取られた「ピアンタータ・ヴェネタ」の農業景観に類似しているとさえ示唆する者もいます。このような背景の下で、プロジェクトパートナー企業であるドリカ社が、ARACNE プロジェクトの一環としてヴェネツィアの別荘の納屋に、修復された日本のニッサン製の小型繰糸機を設置した取組は、非常に象徴的です。この取組により、かつて別荘において農業の中心的施設であった納屋が、シルクに関連した新たな経済発展の原動力として再び機能する時間と空間の結節点となっています。「アトリエ・ツリーシュア」プロジェクトは、展示ルートに沿って顧客にシルクと金のジュエリーを提示するものですが、ヴェネト州に4,000棟存在する別荘の壮麗な古代建築芸術遺産に新たな視点を提供し、ファッションとラグジュアリーの魅力によってシルクの経済活動を復活させることを目指しています。この別荘とアトリエは、設立予定の欧州シルク文化ロードの注目地点となることが期待されます。図7および図8は、その繰糸機と設置した建物を示しています。

現在、ARACNE プロジェクトのパートナーは、これまでの成果を基盤とした新たなプロジェクトの創設を目指して活発に議論しています。

イベント情報

●岡谷蚕糸博物館 企画展

「米山悦朗写真展～カメラのファインダー越しに見た絹～」

神奈川県在住の写真作家・米山悦朗さんは、総合商社を退職後、写真作家活動に入り、国内外取材してきました。岡谷蚕糸博物館のリニューアルオープン当時から養蚕と全国の絹織物産地取材し、作品を定期的に展示していただきました。本企画展では、米山さんが撮影してきた写真作品と着物を合わせた展示をいたします。

〈会期〉 令和7年11月20日（木）～令和8年2月15日（日）
休館日：水曜日・祝日の翌日、年末年始（12/29～1/3）

※製糸工場は12/27～1/5 お休み

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

<https://silkfact.jp/>

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●日本絹の里 特別展

「まゆクラフトと絹の作品展」

繭の特性をいかした独創的なまゆクラフト作品とともに、工芸作家及び日本絹の里友の会会員による作品を展示し、絹や繭の魅力を紹介します。

〈会期〉 令和7年11月30日（日）～令和8年2月1日（日）
休館日：火曜日、年末年始 [12/27～1/6] ※1/3は臨時開館

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●日本絹の里 企画展

「ちりめん創作人形展 ～猫に遊ぶ… 広がる夢・布と糸～」

高崎市在住の人形作家・竹本京さんが「猫」をテーマに制作した作品を中心にをご紹介します。ちりめんや着物の古裂、すが糸など、絹の魅力がふんだんに使用された愛らしい人形の数々をお楽しみいただきます。

〈会期〉 令和8年2月7日（土）～4月5日（日）

休館日：火曜日

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●シルク博物館

【実演・ワークショップ】 ※ワークショップの申し込みは事前予約制です。

- | | | |
|----------|----------------|---|
| 1月10日(土) | 【子ども向けワークショップ】 | 小さなシルクハンカチ染体験 |
| 1月11日(日) | 【子ども向けワークショップ】 | 小さなシルクハンカチ染体験 |
| 1月17日(土) | 【子ども向けワークショップ】 | まわた人形「あひるの親子」作り |
| 1月24日(土) | 【実演】 | 手作り真綿 |
| 2月7日(土) | 【子ども向けワークショップ】 | かいことシルクの勉強会 |
| 2月14日(土) | 【ワークショップ】 | くみひもストラップ作り |
| 2月21日(土) | 【実演】 | 手紬糸作り |
| 3月1日(日) | 【講演会】 | 「シルクが切り拓く未来材料の新たな可能性」
(東京農工大学科学博物館 館長 中澤靖元氏) |
| 3月7日(土) | 【実演】 | 手作り真綿 |
| 3月14日(土) | 【子ども向けワークショップ】 | かいことシルクの勉強会 |
| 3月28日(土) | 【子ども向けワークショップ】 | まゆ人形作り |

【イベント】

12月16日(火)～1月25日(日)『たのしいかいこの発表会』(12月21日(日)表彰式)

※「たのしいかいこの発表会」会期中、小学生は入館料無料

12月6日(土)～1月12日(月・祝)ミニ企画 横浜輸出スカーフ展示

詳細はホームページをご覧ください。お電話にてお問合せください。

〈主催〉 シルク博物館

〈会場〉 シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地シルクセンタービル2階

Tel: 045-641-0841

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>

★イベント開催報告

岡谷蚕糸博物館 企画展

「新収蔵 竹内家着物コレクション ―受け継がれる絹の文化―」

会期：令和7年9月4日（木）～11月16日（日）

開催報告：

明治から大正、昭和初期にかけての子どもの祝い着、婚礼衣装、手仕事で作られたうち織り、裂き織りの着物やこたつ掛けを展示しました。学芸員のギャラリートークでは、着物を着て参加してくださる方も多く、着物への関心の高さが感じられました。繭で作る髪飾りのワークショップでは、繭をカッターで切る硬い感触や、何層にもなっている繭の構造に驚きながらも素敵な髪飾りが完成し好評でした。

群馬県立日本絹の里

特別展「糸かけアートの世界 ～心を紡ぐ 絲語り～」

会期：令和7年9月11日（木）～11月15日（土）

開催報告：

本展では、5人の糸かけ作家による、緻密で繊細な糸かけアート作品をご紹介します。当館での展示に合わせて制作した、新作のカイコやダルマといった群馬県にちなんだ作品や展示空間を活かしたインスタレーション作品も展示し、様々な角度から糸かけアートをお楽しみいただくことができました。

会期中には、ギャラリートークや糸かけワークショップなどの関連行事も開催し、新たな絹の魅力に触れていただく機会となりました。

群馬県立日本絹の里

「群馬の絹」展 ～見る、買う、装う、シルクとの出会い～

会期：令和7年11月20日（木）～11月24日（月・休）

開催報告：

本展は、長い歴史と伝統に培われた染織や最新の加工、製造技術を駆使して創り上げた、優れた織物、ニット、工芸品などの絹製品を一堂に集めて皆様に広く紹介し、「群馬の絹」を体感していただき、蚕糸絹業の活性化、絹の需要拡大を図ることを目的に、毎年開催しております。

来場者の皆様に絹への理解を深めていただくため、群馬の絹製品の販売、ならびに手織り、藍染め、繭クラフト、桑の木ストラップ作りなどのワークショップ、きもの着付け体験を行い、多くの来館者で賑わいました。

シルク博物館

「秋の特別展 第28回全国染織作品展」

会期： 令和7年10月25日（土）～11月29日（土）

開催報告：

全国から絹を素材とした染織作品を広く公募し、その入選作品を展示する本展は、今年度28回を迎えました。出品者89名、応募点数100点のうち厳選なる鑑査の結果、65点の作品が入選しました。例年以上に入選率が高かったのも、意欲的な作品が多かったことによります。さらに審査をおこない、栄えあるシルク博物館大賞には織訪問着「光芒」松島優子 作(群馬県)、シルク博物館賞にはタペストリー「おしゃべりの余韻」萩原沙季 作(大阪府)が受賞しました。買上賞であるこの2点は当館の所蔵作品として、永く保管し展示等において活用していきます。また、ほかの受賞作品は佳賞、奨励賞（5点）、技術賞、意匠賞の計8点と、特別賞として大日本蚕糸会会頭賞、日本真綿協会賞の2点を選出されました。

染織作品の制作にあたっては、材料や道具などの入手が難しいこともあるようですが、作家の皆さまには伝統を受け継ぎながらも新たな挑戦を加えつつ、今後も作品制作に取り組んでいただきたいと願っています。

2025 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの 2025 年度第 3 次審査委員会を 2025 年 11 月 21 日（金）に開催しました。今回の申請は 5 者で、新規 2 者 7 品目、使用許諾されている 3 者のうち製品の追加 1 者 1 品目、履歴の追加 1 者 2 品目、数量の追加 1 者 3 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、5 者 13 品目に対し、11 月 28 日（金）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨、通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) (株) 会信織物 代表者名：廣川 諒 (担当者：廣川 諒) 〒 388-8004 長野県長野市篠ノ井会 892-2 TEL：026-299-7571 表示者登録番号 258	先染反物(上田紬)	500 反	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 埼玉県・岩手県・長野県内 養蚕農家 製 糸 松澤製糸所 染 織 自社
	先染九寸帯 (上田紬)	200 本	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 埼玉県・長野県・栃木県・ 熊本県内養蚕農家 製 糸 松澤製糸所、碓氷製糸(株) 染 織 自社
	先染八寸帯 (上田紬)	200 本	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 岩手県・長野県・栃木県・ 熊本県内養蚕農家 製 糸 松澤製糸所、碓氷製糸(株) 染 織 自社
	白生地着尺 (表地(上田紬))	200 反	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 埼玉県・岩手県・長野県内 養蚕農家 製 糸 松澤製糸所 染 織 自社
	白生地帯 (表地(上田紬))	300 本	

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) 成和 (株) 代表者名：和田充広 (担当者：宮川裕司) 〒 102-0074 東京都千代田区九段南 2-2-3 九段プラザビル TEL：03-6261-3661 表示者登録番号 259	ネクタイ	176 本	繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 染 色 丸八生糸 (株) 製 織 自社工場 縫 製 (株) ドリームクリエイト
	ネクタイ	524 本	繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 染 色 丸八生糸 (株) 製 織 自社工場 縫 製 柳ネクタイ縫製
(製品の追加) (株) 龍村美術織物 代表者名：龍村 育 (担当者：楳垣展康) 〒 615-0022 京都市右京区西院平町 25 ライフプラザ西大路四条 2 階 TEL：075-325-5570 表示者登録番号 210	先染帯地 (袋なごや帯)	20 本	繭生産 西予市管内養蚕農家 製 糸 西予市野村シルク博物館 染色加工 (有) 宏和染工所 製 織 自社
(履歴の追加) 渡豊工房 代表者名：渡辺豊一 (担当者：渡辺豊一) 〒 990-0301 山形県東村山郡山辺町大字山辺 892-1 TEL：023-664-5405 表示者登録番号 190	先染反物 (裏地)	180 枚	繭生産 JA なす南・JA 新みやぎ 管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 撚 糸 梅津撚糸工場 精練染色 佐米染色 (有) 製 織 自工房
	先染反物 (もじり織)	32 反	繭生産 JA なす南・JA 新みやぎ 管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 撚 糸 梅津撚糸工場 精練染色 自工房 製 織 自工房

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(数量の追加) (株) 高島屋 代表者名：村田善郎 (担当者：尾上 崇) 〒 542-8510 大阪市中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	後染反物（振袖）	11 反	繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製 糸 松岡（株） 製 織 篠春織物（株） 染色加工 （株）千總
	後染反物（振袖）	15 反	繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製 糸 松岡（株） 製 織 （株）竹林 染色加工 （株）千總
	後染反物（振袖）	1 反	

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。

純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 2025 年度第 4 次：2026 年 2 月 26 日（木）

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：2026 年 1 月 23 日（金）

(連絡先)

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、伊藤

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3415

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

伊藤：ito@silk.or.jp

一般財団法人大日本蚕糸会から

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 2025 年 11 月 28 日 (2025 - 第 3 次) 現在

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物 (振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物 (色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物 (色無地)、胴裏 (灰汁浸け加工)
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物 (色無地、黒紋付)
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物 (色無地、黒紋付)
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物 (色無地、黒紋付)
010	(有) 樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物 (色無地、黒紋付)
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物 (作家作品)、後染帯地、先染反物 (大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地 (織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物 (帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物 (株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物 (色無地、黒紋付)
016	(有) 絹回廊	東京都中央区	後染反物 (色無地)
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物 (色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢 (株))	群馬県高崎市	裏地 (胴裏 (ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物 (作家作品、紋付地)、白生地 (世紀二一、上州絹星・ぐんま 200、新小石丸)、後染帯地 ((冬物・夏物) : うるし糸が 5% を超えるもの)、寝衣 (うぶ着、おくるみ)、和装小物 (袷紗、帯揚)
022	宮階織物 (株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21 世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物 (色無地、訪問着)、先染帯地 (袋帯 (草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物 (有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地 (袋帯、名古屋帯、袋帯 : 金銀糸が 5% を超えるもの)、先染反物 (御召類、着尺)、後染反物 (色無地)
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品 (マフラー、シャツ、ニット (ウォーマー、腹巻、手袋、靴下))
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物 (江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地、訪問着、留袖、色留袖)、後染帯地、白生地 (表地)
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物 (色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物 (振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地 (長襦袢地、胴裏)、ニット (靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物 (黒紋付 (冬用・夏用)、色無地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地、訪問着)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	柳 崇 (染織家 柳崇)	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	児玉京子 (染織家 児玉京子)	沖縄県竹富町	先染反物、先染帯地
044	草木染工房山村 山村多栄子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、服飾品 (ストール)
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒紬))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)、白生地 (加賀友禅用)、先染着尺 (加賀友禅用)、和装小物 (帯揚げ)
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
069	(株) 紅輪 ((株) 紅輪 まるやま・京彩 グループ)	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)、白生地、先染反物、先染帯地
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) 綾の手 (旧 (株) あきやま)	宮崎県綾町	先染反物 (綾の手紬)、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井紋 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が 5% を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が 5% を超えるもの)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(有) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、紹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着、紋意匠))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)、先染反物 (飯田紬)、白生地着尺 (信州紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市下京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、 パジャマ、袷紗
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、服飾品 (ショール)
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ 地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、 服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカ バー、レグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袷紗、古帛紗(江戸小紋))、 ネクタイ、帯地 (白塩瀬)
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福続織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)、服飾品 (ショール)
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、服飾品 (ストール)
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ローブ 磨	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物 (絰着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの (株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地 (表地、夏物表地)
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット (スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物 (綾御召 (男物、女物)、市松綾御召 (草木染め)、もじり織 (草木染)、もじり織、裏地 (紬八掛、駒八掛、紬駒八掛、紬綾八掛))、服飾品 (先染ストール (綾織草木染、もじり織草木染))
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物 (小紋 (変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	服飾品 (ストール)、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬、御召)、先染帯地 (袋帯)、先染反物 (御召)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))、先染帯地 (袋なごや帯)
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬、本場大島紬 (12 マルキ、15 マルキ))
214	村江菊絵 (菊江) (村江菊絵)	東京都目黒区	先染帯地、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	服飾品 (ストール)
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)、白生地 (帯地、表地)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地・羽二重)
227	(株) 大翻	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)
231	(有) 綵巧	京都市北区	先染反物 (御召)、先染帯地 (名古屋帯 (組帯))
232	ウライ (株)	京都市下京区	後染反物 (小紋)、後染帯地 (袋帯 (表地のみ))
233	大橋メリヤス	群馬県桐生市	服飾品 (ニットストール)
234	宮田織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
235	(有) 中彦	京都市上京区	先染反物 (御袷 (五条袷))
236	大月俊幸	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
237	久保原由佳理	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
238	(株) やしま	広島県広島市	白生地 (表地 (紋意匠))
239	(株) 長谷川	京都市上京区	先染反物 (西陣お召)
240	永見 (株)	鳥取県米子市	白生地 (表地 (紋意匠))
241	京都和装 (株)	京都市下京区	白生地 (表地 (紋意匠))
242	(株) 前田源商店	山梨県富士吉田市	服飾品 (スカーフ、ストール)
243	近江真綿工房 原田	滋賀県米原市	寝具寝装品 (真綿ふとん (国産近江真綿ふとん))
244	昭和西川 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (真綿ふとん)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
245	大迫織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
246	玉城柳子	沖縄県南城市	先染反物(着尺(首里織))、先染帯地(首里織)
247	丸八生糸 (株)	京都市上京区	白生地 (表地)
248	(株) 高島織物	京都市北区	白生地 (表地)
249	くらしつむぐあとりえ	福井県坂井市	白生地(表地、帯地)、服飾品(ストール)
250	UGAA I	東京都世田谷区	洋装服地、Relaxing wear(Night wear、Room wear)
251	石川県立津幡高等学校	石川県河北郡	白生地(牛首紬)、白生地(帯地(牛首紬))
252	合同会社COCON	大阪府四條畷市	寝具寝装品(シュラフ型シルクシーツ、ナイトキャップ、手袋、靴下)、シルクスリッパ
253	福和商事 (株)	東京都中央区	白生地 (表地)
254	(株) 錦	京都市左京区	洋装品 (ジャケット)
255	(株) 橋本絞店	群馬県太田市	絞り着尺
256	(株) ノリージュ	東京都豊島区	絹糸
257	(株) 東京ますいわ屋	横浜市戸塚区	白生地(長襦袢地)
258	(株) 会信織物	長野県長野市	先染反物 (上田紬)、先染九寸帯(上田紬)、先染八寸帯 (上田紬)、白生地着尺(表地(上田紬)、白生地帯 (表地(上田紬))
259	成和 (株)	東京都千代田区	ネクタイ

月日	活 動 内 容 等
10/1	第 6 回常勤理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
10/6	第 2 回新たなビジネス展開 WG 検討会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
10/6	全国シルクビジネス協議会検討会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
10/7	第 8 回有識者会議 (東京都有楽町 蚕糸会館)
10/14	和文化・産業連携振興協議会定例会 (農林水産省農産局 会議室)
10/18	日本絹文化フォーラム 2025 (長野県岡谷市 岡谷市文化会館)
10/21	蚕糸功労者表彰式 (帝国ホテル)
11/5	第 7 回常勤理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
11/6	役員・評議員懇談会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
11/6	臨時理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
11/10	和文化・産業連携振興協議会定例会 (農林水産省農産局 会議室)
11/13	蚕糸会館・自衛消防隊避難訓練 (東京都有楽町 蚕糸会館)
11/13	第 2 回持続的養蚕業確立検討会 (東京都有楽町 蚕糸会館)

月日	活 動 内 容 等
11/21	純国産絹マーク審査委員会（2025 年度第 3 次） （東京都有楽町 蚕糸会館）
11/23	笠間稲荷献穀献繭品評会 表彰式 （茨城県 笠間稲荷）
11/27	第 63 回神宮式年遷宮 御装束神宝御料 織始式 （京都府京都市 龍村美術織物烏丸工場）
11/29,30	第 72 回日本シルク学会 （長野県上田市 信州大学上田キャンパス）
12/2	第 8 回常勤理事会 （東京都有楽町 蚕糸会館）
12/3,4	伊勢神宮農事関係功労者顕彰式 （三重県 伊勢神宮）
12/8	和文化・産業連携振興協議会定例会 （農林水産省農産局 会議室）
12/13,14	シルクサミット 2025 in 愛媛 （愛媛県松山市 愛媛県県民文化会館）

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
野外博物館北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50 - 1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12 - 2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3 - 7 - 1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3 - 2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1 - 2673 - 1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいてステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館 “紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
群馬県立世界遺産センター（セカイト）	370-2316	群馬県富岡市富岡 1450 - 1	0274-67-7821
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28 - 1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3 - 1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1 - 6 - 8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
桑都日本遺産センター 八王子博物館	192-0904	東京都八王子市子安町 4 - 7 - 1 サザンスカイトワー 3 階	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5 - 60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市緑区田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
相模原市立博物館	252-0221	神奈川県相模原市中央区高根 3 - 1 - 15	042-750-8030
海老名市立郷土資料館「海老名市温故館」	243-0405	神奈川県海老名市国分南 1 - 6 - 36	046-233-4028
一般財団法人繊維産業会レインボープラザ(愛川繊維会館)	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 4410	046-281-0356
愛川町郷土資料館	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 5287 (県立あいかわ公園内)	046-280-1050
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館(織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房(織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館(絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業(株)内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3 - 15 - 1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号(上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
藤本蚕業歴史館	386-0042	長野県上田市上塩尻 248	0268-24-2460
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館(松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館(シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
豊田市稲武郷土資料館ちゅうま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34 - 1 - 1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
(公財)手織技術振興財団・織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884

名 称	〒	住 所	電 話
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1 - 4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711
美馬蚕糸会館	771-2107	徳島県美馬市美馬町谷口 5 - 1	0883-63-2502
アヤミハビル館	907-1801	沖縄県八重山郡与那国町与那国 2114	0980-87-2440

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一社) 日本絹人織織物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
TAFS (東京織物卸商業組合)
KOMs (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
全国シルクビジネス協議会

<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<https://tanko.or.jp>
<https://nishijin.or.jp>
<https://www.tafs.or.jp>
<https://www.fashion-kyoto.or.jp>
<https://www.wasou.or.jp>
<https://kyokai.kougeihin.jp>
<https://japan-silk.org>

【大学・試験研究機関】

農業・食品産業技術総合研究機構
北海道大学 (応用分子昆虫学研究室)
宇都宮大学 (分子昆虫学研究室)
東京大学 (昆虫遺伝研究室)
東京農工大学 (蚕学研究室)
東京農工大学 (生体分子構造学分野)
名古屋大学 (資源昆虫学研究室)
信州大学繊維学部
京都工芸繊維大学 (応用生物学課程)
九州大学 (家蚕遺伝子開発分野)
九州大学 (昆虫ゲノム科学研究室)
群馬県蚕糸技術センター
群馬県繊維工業試験場
京都府繊維・機械金属振興センター
(地独) 京都市産業技術研究所
(公財) 衣笠繊維研究所

<https://www.naro.go.jp/index.html>
<https://www.agr.hokudai.ac.jp/r/lab/applied-molecular-entomology>
<https://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology>
<https://sites.google.com/view/igblab-ut-aba/top>
<https://web.tuat.ac.jp/~kaiko>
<https://sites.google.com/go.tuat.ac.jp/nakazawa-lab/home>
<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~yousan>
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles>
<http://www.bio.kit.ac.jp>
<https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/kasan/insect/top.html>
<https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/igs>
<http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
<https://www.tec-lab.pref.gunma.jp/textile>
<http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
<http://www.tc-kyoto.or.jp>
<http://krf-textile.com>

【学 会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<https://jsws-yasan.com>

【博物館等】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館
駒ヶ根シルクミュージアム
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)
はたや記念館ゆめおーれ勝山

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>
<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<https://www.city.seiyo.ehime.jp/miryoku/silkhakubutsukan>
<https://www.tuat-museum.org>
<https://komagane-silk.com/>
<https://silkfact.jp>
<https://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【博物館等】

美馬蚕糸館

<https://mimasanshikan.wixsite.com/mimasanshikan>

野外博物館 北海道開拓の村

<https://www.kaitaku.or.jp>

富岡製糸場

<https://www.tomioka-silk.jp/tomioka-silk-mill/>

群馬県立世界遺産センター

<https://worldheritage.pref.gunma.jp/whc/>

統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	46
(2) 養蚕農家数の推移	47
(3) 繭生産数量の推移	48
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	49
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	50
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	
(11) 製糸工場の原料繭需給	51
(12) 製糸工場の操業状況	52
(13) 生糸在庫数量の内訳	53
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	
(15) 生糸の原産国別輸入数量	
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	
(18) 絹織物生産数量	54
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	55

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	57
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	58

一 資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 Item 暦年 Calendar Year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2010	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013	486	168	346	0.4	9	35	32.0	2,940
2014	393	149	379	0.4	9	35	—	2,734
2015	368	135	367	0.4	8	30	—	2,316
2016	349	130	372	0.3	8	26	—	2,243
2017	336	125	372	0.3	8	28	—	2,195
2018	293	110	375	0.3	8	46	—	2,113
2019	264	92	348	0.3	8	36	—	1,939
2020	228	80	351	0.2	8	31	—	1,214
2021	186	61	328	0.2	7	20	—	1,319
2022	163	51	313	0.2	7	22	—	1,444
2023	146	45	308	0.2	7	33	—	1,242
2024	134	38	284	0.1	7	31	—	1,110
前年比 (%) 2024/2023	91.8	84.4	92.0	50.0	100.0	93.9	—	89.4

資料：・2008年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・2009年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査、2011年以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・2009年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査、2018年11月以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・2008年以前の絹業は経済産業省調査であり、2009年以降絹業は(一社)日本絹人織機物工業会調査である。

(注) 2006年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、2002年以降はすべての製糸工場のものである。

Source：・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)

・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009). The Dainippon Silk Foundation (after 2011)

・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009) The Dainippon Silk Foundation (after Nov. 2018)

・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008). Japan Silk & Rayon Weaver's Association (after 2009)

Note: Silk Fabric Production from 2006 includes spun silk fabrics.

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

<div> <div>項 目</div> <div>年 間</div> <div>春 蚕</div> <div>初秋蚕</div> <div>晩秋蚕</div> </div> <div> <div>暦 年</div> <div>Item</div> <div>Annual total</div> <div>Spring silk-worm</div> <div>Early autumn silk-worm</div> <div>Late autumn silk-worm</div> </div>				
2000	3,280	2,970	2,170	2,700
2005	1,591	1,420	1,061	1,345
2010	756	650	494	637
2011	627	562	358	531
2012	571	514	319	462
2013	486	422	260	399
2014	393	359	230	328
2015	368	323	221	313
2016	349	310	209	310
2017	336	307	201	280
2018	293	254	179	262
2019	264	233	153	224
2020	228	205	129	188
2021	186	161	98	156
2022	163	146	89	142
2023	146	126	78	130
2024	134	122	74	113
前年比(%)				
2024/2023	91.8	96.8	94.9	86.9

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

<div> <div>項目</div> <div>Item</div> </div> <div> <div>暦年</div> <div>Calendar Year</div> </div>	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
2015	135	49	32	54	368	151	147	174
2016	130	47	32	50	372	153	155	162
2017	125	47	29	49	372	153	144	175
2018	110	41	24	46	375	161	134	176
2019	92	35	22	35	348	150	144	156
2020	80	31	19	30	351	151	147	160
2021	61	22	15	24	328	137	153	154
2022	51	20	13	18	313	137	146	127
2023	45	17	11	17	308	135	141	131
2024	38	16	10	13	284	131	135	115
前年比 (%) 2024/2023	86.1	94.5	88.9	76.3	92.2	97.0	95.7	87.8
2024年 構成比 (%)	100.0	40.6	25.6	33.8				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

<div> <div>項目</div> <div>Item</div> <div>年月</div> <div>Year & Month</div> </div>	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2015	378	6,479	—	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	—	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,557	1,747	14,560	245	4,897	4,785
2018	339	5,038	1	5,793	1,330	11,092	213	4,151	4,854
2019	269	4,852	4	5,018	1,429	10,920	165	3,893	4,750
2020	203	2,443	—	3,009	1,066	6,226	167	2,551	3,635
2021	160	3,067	—	3,425	868	6,136	144	2,753	3,850
2022	168	3,646	1	3,754	927	7,945	182	2,803	3,726
2023	154	2,936	—	3,158	859	7,495	137	2,515	3,213
2024	131	2,763	—	2,882	871	6,251	177	2,221	3,005
2023 - 1	13	271	—	345	866	650	10	209	182
2	10	179	—	270	785	309	10	118	285
3	14	295	—	272	822	705	15	221	316
4	17	—	—	142	697	514	9	222	292
5	14	460	—	504	667	742	2	221	289
6	15	221	—	126	777	791	12	205	291
7	11	218	—	280	726	578	23	230	258
8	11	354	—	290	801	742	6	227	251
9	10	198	—	221	788	681	14	216	257
10	11	218	—	193	824	599	20	224	265
11	12	364	—	382	818	658	10	214	255
12	16	157	—	132	859	526	6	208	272
2024 - 1	11	234	—	223	881	492	6	262	203
2	13	290	—	263	921	438	12	139	241
3	10	335	—	343	923	352	20	143	284
4	8	—	—	22	909	557	13	220	262
5	11	366	—	426	860	545	4	212	322
6	10	196	—	177	889	351	25	213	247
7	15	352	—	512	744	746	7	225	249
8	12	170	—	121	805	507	26	164	210
9	14	226	—	226	819	516	3	213	245
10	8	158	—	82	903	488	31	184	253
11	10	284	—	290	907	702	18	183	251
12	9	151	—	196	871	557	14	147	237
2025 - 1	13	206	—	276	814	513	20	205	161
2	10	110	—	120	814	564	12	135	247
3	13	334	—	318	843	387	12	165	245
4	12	—	—	10	845	547	10	165	251
5	6	279	—	377	753	680	7	220	251
6	9	197	—	26	933	448	8	135	245
7	14	207	—	136	1,018	500	9	208	259
8	8	91	—	179	938	284	6	146	178
9	11	193	—	279	863	430	18	153	215
10		120	—			350	11	179	308

資料：(A) (C) (D) 中央蚕糸協会 (2012.12～2018.10) (一財) 大日本蚕糸会 (2018.11～) (B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量 + (A) + (B)} - {(C) + (E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：(A) (C) (D) (E) Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

(B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries (D) = {Stock at end of the previous month + (A) + (B)} - {(C) + (E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④			
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	輸 出 Export				内 需 Domestic Demand ②-③		
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second						計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn			織 物 Fabrics	二 次 The Second
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113			
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84			
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43			
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47			
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46			
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45			
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45			
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45			
2016	240	45	0	195	7	12	14	162	195	15	0	0	9	6	180	45			
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	21	0	0	11	10	172	45			
2018	205	45	0	160	5	11	8	135	160	26	0	0	10	16	134	45			
2019	206	45	0	161	5	11	8	137	161	25	0	0	10	15	136	45			
2020	182	45	0	137	2	6	6	123	137	27	0	0	8	19	110	45			
2021	175	45	0	130	3	6	6	115	130	24	0	0	8	16	106	45			
2022	173	45	0	128	4	8	6	110	128	22	0	0	8	14	106	45			
2023	166	45	0	121	3	7	6	105	121	20	0	0	7	13	101	45			
2024	158	45	0	113	3	6	5	99	113	11	0	0	7	4	102	45			
前年比(%) 2024/ 2023	95	100	—	93	100	86	83	94	93	55	—	—	100	31	101	100			

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

備考：2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills (単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2015		116	159	115
2016		115	110	120
2017		103	120	103
2018		92	117	78
2019		89	97	70
2020		72	73	69
2021		55	57	67
2022		46	59	54
2023		43	50	37
2024		39	46	27
2023 -	1	0	4	49
	2	0	4	44
	3	2	5	41
	4	0	5	37
	5	0	4	33
	6	9	5	34
	7	10	4	40
	8	3	3	40
	9	1	3	38
	10	9	4	43
	11	3	4	42
	12	1	6	38
2024 -	1	1	4	35
	2	0	4	31
	3	0	4	27
	4	0	3	24
	5	3	3	24
	6	8	4	25
	7	10	6	29
	8	3	4	27
	9	1	5	23
	10	13	3	33
	11	0	4	29
	12	1	3	27
2025 -	1	1	5	23
	2	1	4	20
	3	1	5	16
	4	1	5	12
	5	1	2	11
	6	8	4	15
	7	10	5	20
	8	0	3	17
	9	4	4	17

資料：中央蚕糸協会 (2012. 12～2018. 10) (一財) 大日本蚕糸会 (2018. 11～)

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：Central Raw Silk Association (2012. 12～2018. 10). The Dainippon Silk Foundation (2018. 11～)

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運 転 工 場 数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操 業 日 数 Days Operated	従 業 者 数 Number of Workers
			運 転 可 能 Operable	運 転 Operating			
曆 年 Calendar Year							
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	55
	2017	8	110	31	28	266	59
	2018	8	74	34	46	253	57
	2019	8	74	27	36	239	51
	2020	8	74	23	31	218	48
	2021	7	74	15	20	214	43
	2022	7	64	14	22	230	41
	2023	7	44	15	34	235	41
	2024	7	44	13	31	265	34
2023 -	1	7	44	15	34	16	42
	2	7	44	16	36	17	40
	3	7	44	17	39	21	42
	4	7	44	15	34	21	34
	5	7	44	15	34	21	34
	6	7	44	17	39	21	44
	7	7	44	15	34	22	44
	8	7	44	12	27	16	41
	9	7	44	12	27	19	41
	10	7	44	13	30	22	41
	11	7	44	16	36	20	41
	12	7	44	13	30	19	41
2024 -	1	7	44	14	32	17	41
	2	7	44	13	30	20	41
	3	7	44	13	30	19	41
	4	7	44	9	20	20	40
	5	7	44	12	32	19	40
	6	7	44	15	34	21	43
	7	7	44	17	39	22	43
	8	7	42	18	43	17	20
	9	7	42	12	29	31	20
	10	7	42	13	31	30	20
	11	7	42	10	24	29	20
	12	7	42	13	31	20	38
2025 -	1	7	42	17	40	20	38
	2	7	42	16	38	18	40
	3	7	42	18	43	16	41
	4	7	42	21	20	19	41
	5	7	42	8	19	16	41
	6	7	42	14	33	19	41
	7	7	42	13	30	22	42
	8	7	42	12	29	15	35
	9	7	42	12	29	17	41

資料：中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10).The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks：1.The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2.Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3.Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸流通業者 silk distributor
2015		1,410	94	1,316
2016		1,406	130	1,276
2017		1,747	156	1,591
2018		1,330	230	1,100
2019		1,429	238	1,191
2020		1,066	178	888
2021		868	170	698
2022		927	127	800
2023		859	144	715
2024		871	128	743
2023 -	1	866	129	737
	2	785	125	660
	3	822	131	691
	4	737	138	599
	5	667	138	529
	6	777	143	634
	7	726	142	584
	8	801	139	662
	9	788	135	653
	10	824	137	687
	11	818	140	678
	12	859	144	715
2024 -	1	881	138	743
	2	921	138	783
	3	923	138	785
	4	909	133	776
	5	860	133	727
	6	889	136	753
	7	744	138	606
	8	805	137	668
	9	819	137	682
	10	903	130	773
	11	907	130	777
	12	871	128	743
2025 -	1	814	128	686
	2	814	127	687
	3	843	121	722
	4	845	122	723
	5	753	118	635
	6	933	254	679
	7	1,018	332	686
	8	938	278	660
	9	863	283	580

資料 : 中央蚕糸協会 (2012.12~2018.10) (一財) 大日本蚕糸会 (2018.11~)

Source : Central Raw Silk Association (2012.12~2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11~)

(18) 絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
2018	2,113	1,151	619	45	487	578	272	306	384
2019	1,939	1,128	583	43	502	521	242	279	290
2020	1,214	697	460	15	222	364	169	195	153
2021	1,319	840	587	9	244	336	128	208	143
2022	1,444	1,016	716	0	300	280	72	208	148
2023	1,242	817	548	0	269	288	82	206	136
2024	1,110	675	445	0	230	323	126	197	112
2023 - 1	106	75	52	0	23	23	7	16	8
2	99	65	45	0	20	23	6	17	12
3	104	63	48	0	15	25	7	18	16
4	112	73	54	0	19	25	7	18	14
5	113	77	48	0	29	24	7	17	12
6	110	72	47	0	25	25	7	18	12
7	100	63	45	0	18	25	8	17	11
8	101	68	44	0	24	23	7	16	10
9	93	59	41	0	18	23	6	17	10
10	102	68	42	0	26	25	7	18	9
11	107	73	42	0	31	24	7	17	10
12	95	61	40	0	21	23	7	16	10
2024 - 1	94	58	44	0	14	26	10	16	9
2	96	56	40	0	16	27	11	16	12
3	93	56	44	0	12	28	11	17	10
4	93	54	42	0	12	29	12	17	10
5	103	66	36	0	30	28	11	17	9
6	92	54	34	0	20	28	11	17	9
7	95	52	35	0	17	29	12	17	13
8	71	40	30	0	10	23	8	15	7
9	84	46	32	0	14	28	11	17	10
10	95	61	36	0	25	28	11	17	7
11	101	68	36	0	32	25	9	16	7
12	94	61	35	0	26	24	9	15	8
2025 - 1	88	57	43	0	14	23	8	15	7
2	81	45	34	0	11	26	10	16	10
3	90	56	45	0	11	24	10	14	9
4	86	51	32	0	19	26	10	16	9
5	95	62	40	0	22	25	10	15	8
6	86	51	30	0	21	25	10	15	10
7	84	52	41	0	11	24	9	15	8
8	70	44	31	0	13	22	9	13	5
9	73	40	30	0	10	25	10	15	9
10	92	59	37	0	22	26	10	16	8

資料：(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

備考：1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 2024年分までデータ補正がある。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

Remarks：1. Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

2. Data are corrected until 2024.

(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month 暦 年 Calendar Year	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2018	2,113	96.3	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4
2019	1,939	91.8	253,429	89.8	27,584	76.0	380,224	89.1
2020	1,214	62.6	154,333	60.9	10,852	39.3	260,360	68.5
2021	1,319	108.6	153,627	99.5	12,321	113.5	303,511	116.6
2022	1,444	109.5	158,982	103.5	11,988	97.3	281,796	94.4
2023	1,242	86.0	147,196	92.6	11,657	97.2	254,378	90.4
2024	1,110	89.4	132,320	89.9	9,976	85.6	206,760	81.3
2023 - 1	106	102.1	9,451	90.9	1,011	102.8	24,615	110.5
2	99	80.0	12,892	101.1	836	85.1	19,786	93.6
3	104	83.6	11,963	96.7	901	104.4	24,475	97.5
4	112	88.8	13,330	89.2	878	79.0	23,422	89.2
5	113	91.9	11,894	106.1	1,197	106.2	22,043	100.1
6	110	75.9	13,523	92.3	952	77.0	23,807	89.1
7	100	82.4	13,194	90.7	1,121	112.6	18,686	83.9
8	101	90.4	8,952	75.0	855	91.1	16,250	76.8
9	93	89.2	14,213	101.6	684	80.9	20,410	81.2
10	102	86.5	12,354	82.7	989	89.2	19,502	83.2
11	107	88.1	12,399	90.3	1,030	107.2	20,270	83.5
12	95	78.5	13,030	96.4	1,203	144.1	19,688	90.7
2024 - 1	94	88.3	8,032	85.0	885	87.5	14,648	61.1
2	96	96.8	13,377	103.8	1,043	124.8	17,070	86.2
3	93	89.4	11,675	97.6	999	110.9	18,682	73.4
4	93	83.0	12,093	90.7	997	113.6	20,584	86.9
5	103	91.2	10,096	84.9	722	60.3	21,751	99.9
6	92	83.6	13,031	96.4	702	73.7	16,369	68.4
7	95	95.0	10,794	81.8	876	78.1	15,860	84.9
8	71	70.3	8,492	94.9	546	63.9	13,324	82.0
9	84	90.3	12,063	84.9	921	134.6	17,628	90.6
10	95	93.1	9,186	74.4	921	93.1	17,386	86.1
11	101	94.4	12,377	99.8	684	66.4	18,223	84.8
12	94	98.9	11,104	85.2	680	56.5	15,253	77.5
2025 - 1	88	93.6	6,913	86.1	680	76.8	14,152	96.9
2	81	84.4	11,714	87.6	702	67.3	13,393	79.5
3	90	96.8	8,227	70.5	878	87.9	15,781	84.3
4	86	92.5	9,550	79.0	718	72.0	18,671	88.7
5	95	92.2	8,975	88.9	522	72.3	21,545	101.1
6	86	93.5	10,252	78.7	768	109.4	17,460	104.7
7	84	88.4	9,400	87.1	647	73.9	16,341	103.0
8	70	98.6	7,040	82.9	503	92.1	10,685	78.3
9	73	86.9	9,970	82.6	811	88.1	14,627	86.1
10	92	96.8	8,725	95.0	708	76.9	13,407	75.4
11			9,139	73.8	545	79.7		

資料 : 絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計 (2020.8～)

主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考 : 1. 西陣は京都府織布生産動態調査数値の修正により前年比が合わない場合がある。

2. 絹織物生産数量の数値は2024年分までデータ補正がある。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver' s Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics (2020.8～)

The numbers of Production and Shipments of 3major producing areas are reported by sheir local unions.

Remarks : 1. Ratio to previous year in Nishijin may become incorrect if there is a correction in the statistical survey on the production dynamics of woven fabrics in Kyoto prefecture.

2. The figures of silk fabric production quantity are corrected until 2024.

蚕の一生



協力:シルク博物館

一般財団法人 大日本蚕糸会

— 資料・海外 —

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2018年	2019年	2020年
		トン	トン	トン
日本	Japan	110	92	80
中国	China	352,942	201,572	156,690
インド	India	185,560	185,143	169,345
ウズベキスタン	Uzbekistan	17,912	21,374	20,942
イラン	Iran	589	1,407	1,756
タイ	Thailand	4,858	5,011	3,715
ブラジル	Brazil	3,055	3,047	2,742
ベトナム	Vietnam	8,145	11,855	14,937
北朝鮮	North Korea	2,500	2,643	2,643
トルコ	Turkey	94	90	90
ブルガリア	Bulgaria	-	-	-
インドネシア	Indonesia	18	18	18
シリア	Syria	-	1	1
主要国の計	Total	575,783	432,253	372,959

区 分		2021年	2022年	2023年
		トン	トン	トン
日本	Japan	61	51	45
中国	China	136,964	146,560	146,867
インド	India	187,241	199,752	215,642
ウズベキスタン	Uzbekistan	22,770	24,300	25,886
イラン	Iran	1,653	1,798	1,840
タイ	Thailand	3,593	3,107	3,095
ブラジル	Brazil	2,211	1,807	1,715
ベトナム	Vietnam	16,444	16,824	17,727
北朝鮮	North Korea	2,643	2,643	1,919
トルコ	Turkey	76	69	78
ブルガリア	Bulgaria	-	-	-
インドネシア	Indonesia	21	21	17
シリア	Syria	2	1	1
主要国の計	Total	373,679	396,933	414,832

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)の統計値をそれぞれ使用、
それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格

Spot Price of Various Silk Goods

2025年8月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	139.00 ~ 161.50	2,919 ~ 3,392
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	164.50 ~ 199.00	3,455 ~ 4,179
3	玉繭(double cocoon)		97.00 ~ 124.00	2,037 ~ 2,604
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	115.38 ~ 154.75	2,423 ~ 3,250
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	460.25 ~ 516.50	9,665 ~ 10,847
6	生糸(raw silk)	21d、輸出版売	464.25 ~ 525.00	9,749 ~ 11,025
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	454.75 ~ 487.75	9,550 ~ 10,243
8	玉糸(doupion silk)	110d	443.00 ~ 460.25	9,303 ~ 9,665
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.70 ~ 46.50	855 ~ 977
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.00 ~ 72.00	1,302 ~ 1,512
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	52.00 ~ 57.50	1,092 ~ 1,208
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	45.00 ~ 51.00	945 ~ 1,071

注:1元=21円

1 CNY=21 JPY

2025年9月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	137.20 ~ 160.60	2,881 ~ 3,373
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	161.00 ~ 197.60	3,381 ~ 4,150
3	玉繭(double cocoon)		97.00 ~ 124.20	2,037 ~ 2,608
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	112.90 ~ 153.60	2,371 ~ 3,226
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	456.00 ~ 516.00	9,576 ~ 10,836
6	生糸(raw silk)	21d、輸出版売	464.00 ~ 524.00	9,744 ~ 11,004
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	448.20 ~ 487.00	9,412 ~ 10,227
8	玉糸(doupion silk)	110d	440.00 ~ 458.00	9,240 ~ 9,618
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	39.80 ~ 46.50	836 ~ 977
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.50 ~ 72.00	1,292 ~ 1,512
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.50 ~ 57.50	1,082 ~ 1,208
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	44.50 ~ 51.00	935 ~ 1,071

注:1元=21円

1 CNY=21 JPY

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2025年10月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	137.20 ~ 160.60	2,881 ~ 3,373
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	161.00 ~ 197.60	3,381 ~ 4,150
3	玉繭(double cocoon)		97.00 ~ 124.20	2,037 ~ 2,608
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	112.90 ~ 153.60	2,371 ~ 3,226
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	456.00 ~ 516.00	9,576 ~ 10,836
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	464.00 ~ 524.00	9,744 ~ 11,004
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	448.20 ~ 487.00	9,412 ~ 10,227
8	玉糸 (doupion silk)	110d	440.00 ~ 458.00	9,240 ~ 9,618
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	39.80 ~ 46.50	836 ~ 977
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.50 ~ 72.00	1,292 ~ 1,512
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.50 ~ 57.50	1,082 ~ 1,208
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	44.50 ~ 51.00	935 ~ 1,071

注:1元=21円

1 CNY=21JPY

2025年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	136.88 ~ 159.38	3,011 ~ 3,506
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	159.38 ~ 194.25	3,506 ~ 4,274
3	玉繭(double cocoon)		96.81 ~ 123.81	2,130 ~ 2,724
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	110.00 ~ 152.00	2,420 ~ 3,344
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	454.75 ~ 515.00	10,005 ~ 11,330
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	463.00 ~ 523.00	10,186 ~ 11,506
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	447.50 ~ 486.00	9,845 ~ 10,692
8	玉糸 (doupion silk)	110d	440.00 ~ 457.00	9,680 ~ 10,054
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	39.50 ~ 46.50	869 ~ 1,023
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.50 ~ 72.00	1,353 ~ 1,584
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.50 ~ 57.50	1,133 ~ 1,265
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	44.50 ~ 51.00	979 ~ 1,122

注:1元=22円

1 CNY=22JPY

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<https://silk.or.jp>

シルクレポート 2026 年 1 月号 No.88 令和 8 年 1 月 1 日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3415

URL : <https://silk.or.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず